

【市場展望】魅力的な水準の日本株

■重要イベントに注目

今週（8月24～28日）の東京株式市場は、重要イベントを見極めながらの展開となりそうだ。前週末21日の日経平均株価は、前日比200円安の6万6,016円と反落した。ただし、ファーストリテイリングとソフトバンクグループの2銘柄合計で約328円押し下げ要因となったことによるもので、TOPIXは小幅に続伸し高値圏を維持している。相場の基調は依然として強いといえそうだ。

今週は26日に米半導体大手エヌビディアが決算を発表する。AI相場のけん引役であり、決算実績やガイダンスに加え、次世代AI半導体ルービンの動向などが市場の関心を集めるだろう。

また、27～29日にかけて経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」が開催される。ウォッシュ米連邦準備理事会（FRB）議長の講演が予定されており、その発言が注目されるが、日頃から金融政策に関わる発言を控える議長だけに、今後の政策に関する手掛かりを得られる可能性は低いだろう。

■イールドスプレッドは日本株優位

インフレや財政への警戒から足元で、長期金利が上昇している。8月21日時点で、翌日物金利スワップ（OIS）市場では9月の日銀金融政策決定会合における利上げ確率が80%を超えるなど金利動向が注目される。

そこで、日米の主要株価指数のイールドスプレッドを比較したところ、日本株の割安感がみられる。イールドスプレッドとは、長期国債の利回りから株式益利回り（1株当たり利益を株価で割った値）を引いて求める。値が小さい（またはマイナス幅が大きい）ほど、債券に比べて株式の利益利回りが高く、株価は「割安」と判断される。良好な企業業績から各企業の予想EPSが一段と上昇する中、株価の調整が進んだことで、予想PERは低下してきた。8月21日時点で、日経平均株価のイールドスプレッドは▲2.97%、TOPIXは▲2.96%となっており、米国株（NYダウ0.05%、S&P500種株価指数▲0.01%）に比べて魅力的だ。

（2026/8/24 大塚 俊一）



【重要開示事項】

- この資料は情報提供を目的として作成されたものです。投資勧誘を目的としたものではありません。そのため証券取引所や証券金融会社が発表する信用取引に関する規制措置等については記載しておりません。
- この資料は信頼しうるデータ等に基づいて作成されたものですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、将来の株価等を示唆・保証するものでもありません。
- 記載された内容・見解等はすべて作成時点でのものであり、予告なく変更されることがあります。
- この資料に関するお問い合わせは、弊社担当者へお願いいたします。

【ご投資に当たっての注意事項】

- 有価証券の価格は売買の需給関係のみならず、政治・経済環境や為替水準の変化、発行者の信用状況の変化、大規模災害の発生による市場の混乱等により、変動します。そのため有価証券投資によって損失を被ることがあります。商品や銘柄の選択および投資の時期等の決定は、お客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- 弊社は資料に記載された有価証券を保有または売買することや、資料に記載された企業に対し投資銀行業務を行うことがあります。
- 弊社取扱商品の購入申し込みをされる際には契約締結前交付書面、目論見書等を必ずお受け取りください。商品ごとにリスクや手数料等費用は異なりますので、内容をよくご確認ください。目論見書等は弊社担当者へご請求ください。

【手数料等の費用について】

- 株式等（ETF・ETN・REIT等を含む）のお取引にあたっては、約定代金に対して最大1.43%（最低手数料3,300円（税込み））の委託手数料をいただきます。株式等を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- 投資信託のご購入にあたっては、お申込み金額に対して最大3.3%（税込み）の購入時手数料をいただきます（換金時に換金時手数料としていただく場合もあります）。また保有期間にわたって信託財産の純資産総額に対し最大2.585%（税込み・年率）の運用管理費用（信託報酬）およびその他の費用を間接的に負担いただきます。さらに換金時に最大1.0%の信託財産留保額を負担いただく場合があります。
- 債券を募集または弊社との相対取引で購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。